

# J R 総連通信

2023年7月28日 No.1668

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連） <http://www.jr-souren.com>

## 「2024年問題と貨物輸送の課題・検証」



JR総連は7月24～25日、JR貨物労組とJR貨物労連・山陽ロジ労組の協力のもと、JR伯備線の貨物列車の輸送状況や鳥取県米子を拠点とする伯耆大山駅の入換作業等について現地視察し、課題認識を共有してきました。

JR総連からは、小林政策・政治部長が参加し、JR貨物労組からは村上書記長と森川業務部長、山陽ロジ労組からは米子支部の谷口執行委員長、小椋執行副委員長のほか、JR西労からも幸書記長、米子支部の南波書記長が参加しました。

現地では、JR貨物米子営業所、ジェイアール貨物・西日本ロジスティクス米子営業所の協力もあり、構内視察のほか、EF64形式機関車の老朽取り替えに伴う課題、冬期運用時の構内除雪の苦労や、平成30年西日本豪雨の際には、山陽本線が寸断されたときの迂回ルートとして活用された事例など、多岐に渡る説明を受けました。

また今後は、2024年度からトラックドライバーの改善基準告示が改正され、時間外労働の規制が強化され、それに伴い、トラック輸送能力の34.1%（9.4億トン）が不足する可能性があり、島根県や鳥取県などにおいても、物流維持にむけて鉄道貨物輸送の役割と期待は膨らんでいることなど、「現場にいるからこそ知り得る話」を組合員から直接聞くことができました。

JR総連は、今回受けた要望を含め、JR総連推薦議員懇談会の議員や関係省庁とも連携し、環境問題の視点からも貨物鉄道の優位性や目前に迫りつつある物流クライシスに対して、JR総連の提言として訴え、組合員の声が国政に届くよう、政策課題の実現に向けて取り組みを強化していきます。

